

## 潮・風に立ち向う集落

## 三崎半島の石積み文化

三崎半島においては、防風、防潮を目的とした石垣が発達しており、家屋だけでなく船倉・納屋・農地・住居を囲み、生活上かかすことの出来ないものとなっていた。

石垣の高さは低いものでも1.5m、高いところでは人の背丈を越え4m近いものである。幅は50cm～1.5mほどある。石垣に使用している石の大きさは、せいぜい人が持ち上げられる程度で、地元では通称「青石」「ごろた石」と呼んでいる。青石とは「緑泥結晶岩」（緑色片岩）である。結晶片岩は片理面のため平行に剥げ易く、薄く四角形の岩石となる事が多い。また、海に沿った井野浦の青石は、丸みを帯びている事から、面を削って揃える必要が少ないため、石垣を積むのに好都合だった。

大きな青石は、庭石にすれば高価なものになるが、佐田岬半島の人々にとって「青石」は、生活の中でありふれた普通の石である。

名取は急傾斜地に家や畑を作るため、あちこちに高く石を積み上げて集落が形成された。半島では珍しい石灰岩が出る地層で、石垣にも白亜の大理石が混じり、独特の景観を成している。井野浦の石垣は高いとは言えないが、海からの風を石垣とともに遮りまた、かわすためには高さを全体的に低くした方が有利である。



野坂の石垣の外側



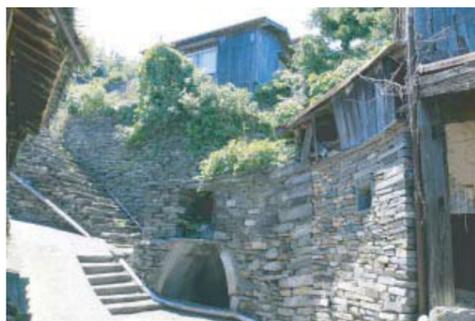
野坂の石垣の内側



井野浦集落の石積み



井野浦集落の石積み



名取集落の石積み



現在の電動式の樋門



海抜0m以下の集落



周囲の堤防の様子



禎瑞地区の遊水地



手で開閉していた堤防の樋門

## 海抜0mの禎瑞集落

禎瑞地区は江戸時代に西條藩の農地拡大のために造成された埋立地であり、西条市の沿岸部、中山川と加茂川の間に位置している。

周辺は堤防で囲まれており内側に遊水地が設けている。地区は海抜0m以下の場所が大部分を占めており満潮時には堤防の外側の海面の高さが土地の高さより高く、また、遊水地には乙女川の水が常に流れ込んでいる。そのため、この地区では強固な堤防で海から土地を守り、堤防に樋門を設けて定期的に遊水地の水を海に落とす事が必要不可欠である。

禎瑞は江戸時代から堤防と樋門を用いて土地を守ってきた。樋門の管理は干拓から200年近く、難波に住むある一族が代々たずさ担ってきた。

干拓当初、この地区には5カ所の樋門があり、手で開閉していた。内外の水位が同じ時に、戸板を巻き上げ、また内から外への流れのあるうちに早めに巻き下ろす。潮の干満の適時を見極めないと水圧のために樋門の開閉ができない。大潮のときであれば、干潮の2～3時間前に開き、干潮から1時間後に閉じる目安であった。

その後、昭和20年代に入り、樋門はるくる式からハンドル式に改造され、戸板の代わりに大きな一枚鉄板を大きなハンドルを回転させることにより上下させるようになった。

## 愛媛地域会名簿(五十音順)

上野 貴	岡本 保孝	賀村 智	小林 寛之	笹木 篤	眞田井 良子	白石 健一	高岡 孝一	武智 和臣
武知 美穂	戸田 雄二	松浦 龍也	松浦 洋	三好 鐵己	村上 巨平	森 保知	山内 敏功	和田 耕一